

偉業に関するもの

会津軍の砦

《勢至堂》

徳川三百年の体制が崩れ、賊軍の汚名を一身に背負って、会津藩は孤立する状態となった。各峠に陣地をつくり、西軍の攻撃に備えた。勢至堂峠は主力攻撃を予想して、五郎山の沢に砦を築いて、沢山の武士が駐屯して防備体制を整えた。

西軍は戦いになると、奇襲攻撃を計り、石蕨口を攻めたので、勢至堂陣地は必要なくなってしまう。他の陣地に引上げる時、備え付の大砲を打ったところ、一里壇までしか届かなかったといわれた。

五郎山の陣地より一里壇までは約十丁程の距離なので、その当時の大砲はいかに幼稚であったかがわかる。草木茂る中に、幾星箱を徑て砦の跡が残っている。

(話者 柏木平蔵)

勢至堂の一里塚

